

活気にあふれ、親しまれる神戸港

世界トップクラスのコスト・スピード・サービスを

国際コンテナ戦略港湾の実現を目指します。

- 戦略的港湾運営によるターミナルコストの低減
- 内航フィーダー網の抜本的な強化
- 世界トップクラスの荷主サービスの提供

神戸港は大阪港とともに「阪神港」として、平成22年8月に国際コンテナ戦略港湾に選定されました。官民一体となってコンテナ物流のハブ機能の強化、国際基幹航路の我が国への寄港を維持・拡大することが目的です。また、企業の立地環境を向上させ、わが国経済の国際競争力を高め、雇用と所得の維持・創出をめざします。

- ①コンテナターミナルの一体運営によるターミナルコストの低減、
- ②内航フィーダー網強化による広域からの貨物の集約、
- ③ゲートオープン時間拡大等の荷主サービスの向上、
- ④コンテナ船大型化の進展に対応する大水深岸壁の整備、など各種施策に取り組んでいます。

瀬戸内の海をきれいに

海洋環境整備船で海の環境を守ります。(大阪湾・播磨灘)

- 海に浮かぶ油や、木材、ペットボトルなどのゴミの回収
- 水質や底質の調査・分析



Dr.海洋 海油清掃油回収船
Dr.KAIYO

油の回収の場合

浮遊堰式とネットコンベア式の油回収機で、あらゆる状態の油の回収に対処。油分だけを迅速に回収できます。



クリーンはりま 海油清掃油回収船
Clean HARIMA

ゴミの回収の場合

回収したゴミは陸揚げして分別・乾燥し、可燃物は焼却処分。不燃物は産業廃棄物処理場へ投棄処分します。



みなとオアシスKOBE

休憩スペース、トイレ、駐車場などの施設を活用して、人が訪れやすい「みなと」を目指す『みなとオアシス』制度。平成22年10月、現代芸術の発信基地 波止場町TEN×TEN、メリケンパーク、神戸ハーバーランド、神戸ポートターミナルなどの施設を中心に、近畿地方で3番目の『みなとオアシス』に認定されました。



監修: 神木哲男 神戸大学名誉教授
編集協力: 神戸市文書館、神戸市立博物館、神戸市、神戸市教育委員会、神戸商工会議所、神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター、国土交通省神戸港湾事務所
編集: 株式会社CNインターボイス
写真協力: 神戸市、神戸市立博物館、神戸大学附属図書館、神戸新聞社、神戸市文書館、住友ゴム株式会社

改訂事務局: NPO法人近畿みなとの達人
神戸市中央区磯辺通4-1-8 I.T.C. ヒル
Tel: 078-891-4561 E-Mail: npopttatsujin@gol.com

みなとまちの産業・観光

海とみなとの相談窓口	☎0120-497-370 (全国フリーダイヤル)
国土交通省神戸港湾事務所	Tel. 078-331-6701
神戸市みなと総局	Tel. 078-322-5670
(一社)神戸港振興協会	Tel. 078-327-8982
神戸税関(広報広聴室)	Tel. 078-333-3028
神戸商工会議所	Tel. 078-303-5800
神戸市産業振興局観光コンベンション課	Tel. 078-322-5339
(財)神戸国際観光コンベンション協会	Tel. 078-303-1010
神戸市総合インフォメーションセンター	Tel. 078-322-0220
北野観光案内所	Tel. 078-251-8360

みなとまちの歴史

神戸市立博物館	Tel. 078-391-0035
神戸市文書館	Tel. 078-232-3437
神戸海洋博物館・カワサキワールド	Tel. 078-327-8983
神戸大学海事博物館	Tel. 078-431-3564
海外移住と文化の交流センター	Tel. 078-272-2362
神戸華僑歴史博物館	Tel. 078-331-3855
神戸市立中央図書館	Tel. 078-371-3351
神戸市教育委員会	Tel. 078-331-8181

Pictorial Map of Kobe Port Town

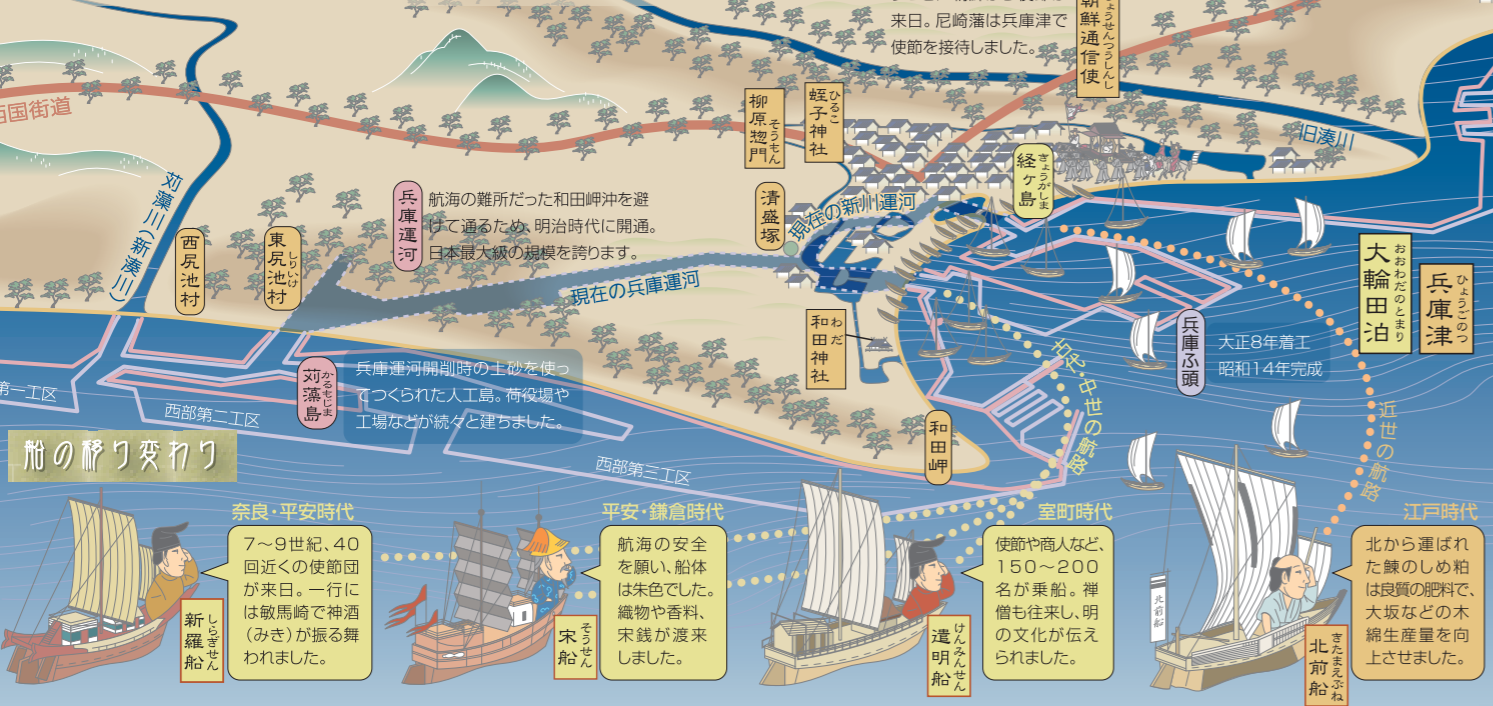
Kobe port town continues to grow and develop together with the culture that foreign people brought with them. The Western and modern (*haikara*) culture includes jazz, European clothes, rugby, bread and so on.



日本と世界を結ぶ 日本と世界を結ぶ 日本と世界を結ぶ

八千樺の神の御代より 百船の泊る泊

神戸の港の歴史は万葉集など、古代の文献に表れる敏馬浦に始まります。その後、大輪田泊・兵庫津と呼ばれる港が現在の兵庫区付近に開かれ、国際港としてにぎわいます。そして、鎖国の時代を経て神戸開港。みなとまちは現代へ、未来へと発展を続けます。



船の形が変わり

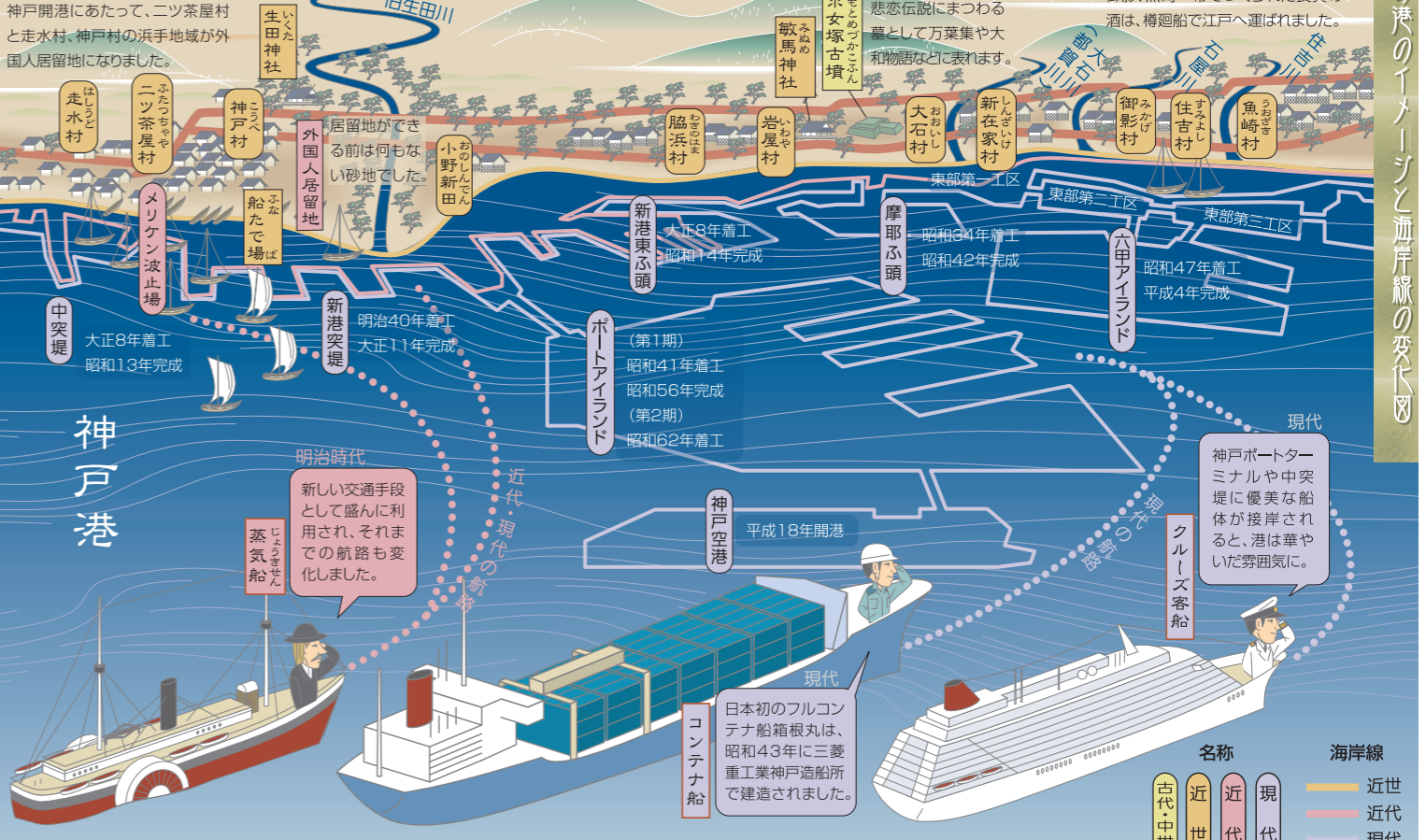
奈良・平安時代
7~9世紀、40回近くの使節が来日。一行には敏馬浦で神酒(みき)が振る舞われました。

平安・鎌倉時代
航海の安全を願い、船体は朱色でした。織物や香料、宋銭が渡来しました。

室町時代
使節や商人など、150~200名が乗船。禅僧も往来し、明の文化が伝えられました。

江戸時代
北から運ばれた鯨のしめ粕は良質の肥料で、大坂などの木綿生産量を向上させました。

日本と世界を結ぶ 日本と世界を結ぶ 日本と世界を結ぶ



神戸港

明治時代
新しい交通手段として盛んに利用され、それまでの航路も変化しました。

近代・現代の神戸港
日本初のフルコンテナ船箱根丸は、昭和43年に三菱重工神戸造船所で建造されました。

現代
神戸ポートターミナルや中突堤に優れた船体が接岸されると、港は華やいた雰囲気。

名称	開港
大輪田泊	大正8年着工 昭和14年完成
兵庫津	大正8年着工 昭和14年完成
新港突堤	明治40年着工 大正11年完成
中突堤	大正8年着工 昭和13年完成
新港東ふ頭	大正8年着工 昭和14年完成
摩耶ふ頭	昭和34年着工 昭和42年完成
六甲アイランド	昭和47年着工 平成4年完成
神戸空港	平成18年開港

みなとまち神戸の形が変わり

古代・中世

新羅船も訪れた古代の港・敏馬浦
敏馬浦は現在の灘区岩屋、浜尻付近にあったとされる天然の良港で、万葉集にも船が盛んに行き交うようすが歌われています。また、畿内*の西端に位置するため、朝鮮半島の新羅の使節も来航する国際的な港となっていました。★畿内:都を中心とした大和・山城・河内・和泉・摂津の5国

大輪田泊から兵庫津へ、繁栄する国際貿易港
和田岬北側の大輪田泊は、奈良時代の僧・行基が摂播五泊の一つとして整備したといわれます。平安時代には日宋貿易を行った平清盛が港への風波を防ぐため、経ヶ島を築造しました。清盛は治承4年(1180)に短期間ながら福原遷都も実施。この地に港・首都・経済の機能が集中した海港都市を築くことを夢見ていたといわれています。

大輪田泊は鎌倉時代の僧・重源による修築の頃から兵庫津と呼ばれ、室町時代に足利義満が日明貿易を始めると遣明船の基地として栄えました。また、15世紀中頃には瀬戸内海と畿内を結ぶ物流の拠点港となり、年間2000隻以上の船が穀類・海産物・塩などを積んで入港しました。

近世

北前船でにぎわう兵庫津
17世紀中頃、東回りや西回り航路が開発されました。西回り航路では北前船が活躍。蝦夷地(北海道)の昆布や鯨のしめ粕*を兵庫・大坂にもたらし、瀬戸内海地域から米や酒、木綿古着などを東北地方に運びました。

兵庫津も北前船の寄港地として繁栄します。北前船の船主となった高田屋嘉兵衛は蝦夷地との交易で大成功を収め、蝦夷地の開発にも貢献しました。★鯨のしめ粕:油を搾り取ったあとの鯨。肥料として使われました

鎖国から開港へのステップ
幕末にロシア軍艦が大坂湾に来航したことで、瀬戸内海沿岸の防衛が必要になりました。文久3年(1863)、幕府は和田岬などで砲台建造に着手し、勝海舟に海軍操練所の設置を命じました。この頃、兵庫津の東の神戸村には網屋吉兵衛がつくった船たて場(船の修理用ドック)があったため、その近くに(現在の新港第一突堤付近)日本初の海軍の養成所は開設されました。そして、外国貿易のための新しい港も人家が密集していた兵庫津周辺を避け、この地を中心に建設されることになります。

近代

神戸開港と外国人居留地の誕生
日米修好通商条約締結後、神戸は横浜などから約10年遅れて1868年に開港しました。開港当初は、閉鎖された海軍操練所の跡地が運上所(税関)に、かつての船たて場が運上所の船入場になったほかは、わずかな施設しかなく、居留地建設も遅れていました。その後、英国人、J.W.ハートの設計で町づくりが進み、東洋一美しい居留地といわれた町並みが完成。貿易は居留地の外国人主導で行われ、居留地はビジネスの中心地として発展していきます。

近代産業を支えた兵庫津
兵庫津やその周辺では川崎正蔵の「川崎兵庫造船所(川崎造船所)」や「神戸三菱造船所」、後に総合商社として活躍する「鈴木商店」が創業しました。また、明治32年(1899)には八尾善四郎が、航海の難所だった和田岬沖を避けて西の海と既設の新川運河(1876年竣工)を結ぶ兵庫運河を開削。これにより運河沿いには製粉業や木材加工の企業が進出しました。

現代

時代の要請に応え、発展する港
明治~昭和初期の修築工事などを経て、神戸港の近代化は進みましたが、第二次世界大戦では多くの施設が失われました。昭和29年、新しい工業基盤をつくるため、神戸市東部で埋立事業が着工。神戸製鋼所が進出した第一工区をはじめ、第二・三工区が昭和42年までに完成。西部でも昭和32年~40年に大規模な埋立が行われました。その後、昭和56年には港湾機能を持つ海上都市・ポートアイランドが誕生し、神戸港のコンテナ物流が大幅に進展。平成4年にはコンテナバスやフェリーバスを整備した六甲アイランドも竣工しました。

阪神・淡路大震災を乗り越えて
平成7年の阪神・淡路大震災では神戸港にも甚大な被害がありました。災害に強い港をめざして行われた施設の復旧は約2年で完了しましたが、その間、コンテナ貨物取扱量は激減。国内とアジアの物流経済に大きな影響を与えました。

さらに豊かなみなとまちへ
平成18年に神戸空港が開港し、神戸は多彩な機能を持つみなとまちへと進化を続けています。また、東アジア諸港が台頭するなか、神戸港は大阪港とともに、平成22年に国際コンテナ戦略港湾「阪神港」に指定され、コンテナ輸送の国際物流拠点をめざした港湾整備を進めています。

江戸時代の港のイメージと海岸線の変化図

The foreign settlement and the port of Kobe where Western culture flourishes

西洋文化花開く居留地と神戸港

明治中期の居留地と雑居地を海から望む

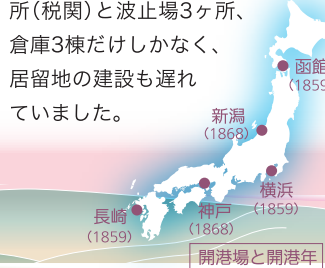
神戸開港～居留地返還

神戸開港後、居留地の外国人がもたらした西洋文化はみなとまち神戸を新しい時代へ誘います。

「30年前、日本当局がわれわれ外国人に神戸の居留地を引き渡した時、その地は真正正銘の砂浜でした。今日、私たちはその同じ場所を美しい建築物で並び、倉庫という倉庫には商品があふれた、立派な町に変えて日本政府に返還します。(中略)居留地の歴史はそのまま神戸の歴史を述べることになるでしょう」—フランス領事・フォサリュウー 明治32年(1899)返還式にて

神戸開港、開かれた扉

安政5年(1858)の日米修好通商条約で神奈川(横浜)、兵庫(神戸)など5港の開港が決定。兵庫の実際の開港は1868年。開港場は神戸村となりました。開港当日には運上(税関)と波止場3ヶ所、倉庫3棟だけしかなく、居留地の建設も遅れていました。



神戸の中の外国

完成した居留地には、先に開港した横浜などからも外国人が進出しました。居留地は治外法権とされ、住民代表や各国領事、兵庫県知事で構成する「居留地会議」が運営を行いました。返還まで自治が行われた所(税関)と波止場3ヶ所、倉庫3棟だけしかなく、居留地の建設も遅れていました。



居留地会議が開かれた行事局庁舎(38番館)

外国人が主導権を握った貿易

明治初期、貿易のノウハウを知らない日本人は、外国商會が輸入した商品を清国商人の仲立ちで買い取るなど、不利な形で取引しました。それでも、居留地周辺や日本各地から商人が押し寄せたとはいえます。また、海外航路もアメリアン商會やパシフィック・メール社などの外国商會が独占していました。★1:17番館/1868年時 ★2:34番館/1868年時



外国商會や銀行が並びメリケン波止場付近(明治中期)

神戸港の輸入額、全国一に

明治初期の輸出品は茶、生糸を中心に樟脳や銅などがあり、中期には花むしろや、マッチなどの工業製品が増加。明治30年代以降は綿糸が1位でした。

輸入品は当初、綿・毛織物が約50%を占めていましたが、明治35年以降には綿花が急増。神戸港の輸入額は明治26年(1893)から全国一となりました。



花むしろを輸出したテラカンパ商會(121番館)

日本人貿易商の挑戦

明治中期まで輸出入の大半が外国人によって行われました。そうした中、明治23年(1890)に兼松房次郎は、日本人で初めてオーストラリアから羊毛を直接輸入(直貿易)しました。その後、明治44年には商社や海運業などの発展を背景に、日本人による貿易量が外国人のそれを上回りました。



栄町から居留地の海岸通りに移転してきた兼松商店

神戸から広まる新技術

E.C.キルビー^{★3}は「小野浜造船所」で明治15年(1882)に日本初の鉄製汽船、「第一太湖丸」を建造。E.H.ハンター^{★4}の「大阪鉄工所」とともに近代造船に貢献しました。また、ウォルシュ兄弟^{★5}は木綿バルブを開発・製造し、明治12年には洋紙の製造を開始しました。その後、事業は三菱の岩崎弥太郎に引き継がれました。

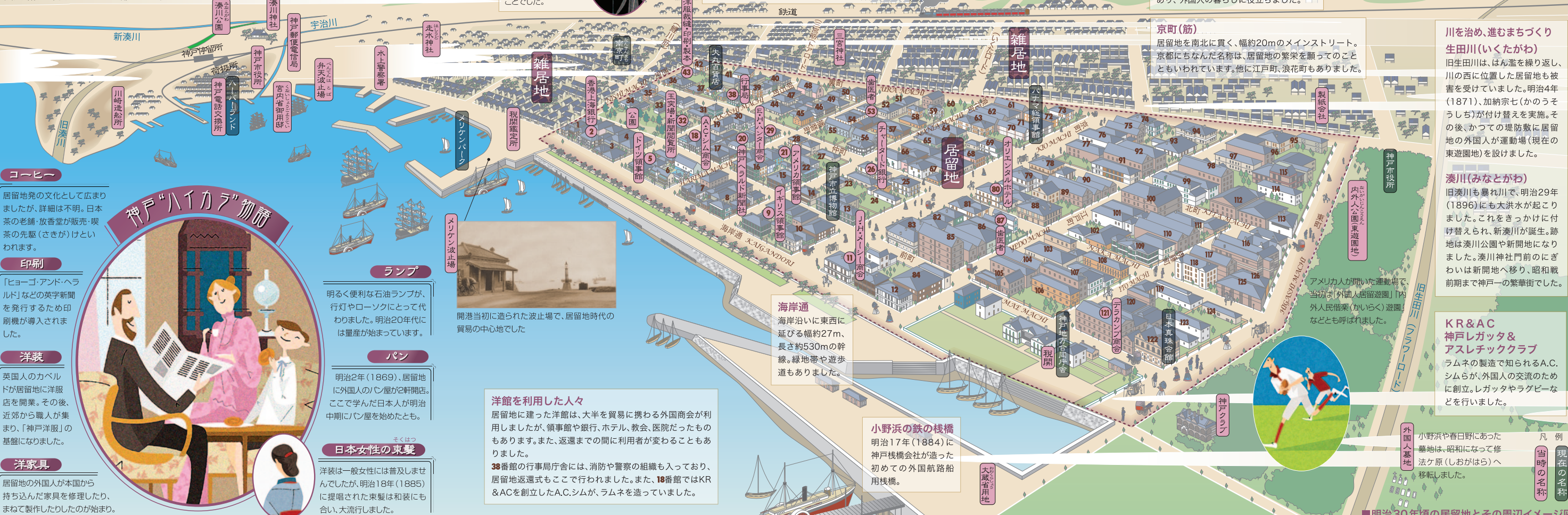
★3:13・24番館/1868年時 ★4:29番館/1868年～ ★5:2番館/1877年時



「第一太湖丸」は琵琶湖の連絡船になりました

東洋の真珠・居留地、異文化交流のまち・雑居地

居留地の建設は、ヨーロッパの近代都市設計技術を用いて、イギリス人土木技師・J.W.ハートが手がけました。居留地は条約国の人が住み、貿易ができるまちで、長崎、横浜を先例にして建設が進んだといえます。東西は旧生田川～鯉川筋、北は旧西国街道から南は海岸までの約500m四方に126区画が誕生。街路樹やガス灯が設置され、下水道もありました。雑居地は中国など、条約国以外の人も日本人といっしょに住める地域で、現在の異人館街や南京町はその一部でした。



ガス灯

居留地にガス灯が初めて点灯されたのは、明治7年(1874)のことでした。



鉄道の開通

明治7年(1874)に神戸～大阪間が開通。当初は途中に三ノ宮、西ノ宮の2駅のみで、1日8往復しました。

三宮筋(トアロード)

北野異人館街～居留地の通路として利用されました。通り沿いには中国人の店舗もあり、外国人の暮らしに役立ちました。

京町(筋)

居留地を南北に貫く、幅約20mのメインストリート。京都にちなんだ名称は、居留地の繁栄を願ったことともいわれています。他に江戸町、浪花町もありました。

川を治め、進むまちづくり

生田川(いくたがわ) 旧生田川は、はん濫を繰り返す、川の西に位置した居留地も被害を受けていました。明治4年(1871)、加納宗七(かのそうしち)が付け替えを実施。その後、かつての堤防敷に居留地の外国人が運動場(現在の東遊園地)を設けました。

湊川(みなとがわ)

旧湊川も暴れ川で、明治29年(1896)にも大洪水が起こりました。これをきっかけに付け替えられ、新湊川が誕生。跡地は湊川公園や新開地になりました。湊川神社門前にぎわいは新開地へ移り、昭和戦前期まで神戸一の繁華街でした。

KR&AC 神戸レガッタ&アスレチッククラブ

ラムネの製造で知られるA.C.シムらが、外国人の交流のために創立。レガッタやラグビーなどを行いました。

コーヒー

居留地発の文化として広まりましたが、詳細は不明。日本茶の老舗・放香堂が販売・喫茶の先駆(さきがけ)といわれます。

印刷

「ヒョーゴ・アンド・ヘラルド」などの英字新聞を発行するため印刷機が導入されました。

洋装

英国人のカベルドが居留地に洋服店を開業。その後、近郊から職人が集まり、「神戸洋服」の基礎になりました。

洋家具

居留地の外国人が本国から持ち込んだ家具を修理したり、まねて製作したりのが始まり。

ランプ

明るく便利な石油ランプが、行灯やろうそくにとって代わりました。明治20年代には量産が始まっています。

パン

明治2年(1869)、居留地に外国人のパン屋が軒開店。ここで学んだ日本人が明治中期にパン屋を始めたと。

日本女性の東髪

洋装は一般女性には普及していませんでしたが、明治18年(1885)に提唱された東髪は和装にも合い、大流行しました。

洋館を利用した人々

居留地に建った洋館は、大半を貿易に携わる外国商會が利用しましたが、領事館や銀行、ホテル、教会、病院だったものもあります。また、返還までの間に利用者が変わることもありました。38番館の行事局庁舎には、消防や警察の組織も入っており、居留地返還式もここで行われました。また、18番館ではKR&ACを創立したA.C.シムが、ラムネを造っていました。

海岸通

海岸沿いに東西に延びる幅約27m、長さ約530mの幹線。緑地帯や遊歩道もありました。

小野浜の鉄の棧橋

明治17年(1884)に神戸棧橋会社が造った初めての外国航路船用棧橋。

参考資料:坂本勝比古氏設計の明治30年(1897)頃の居留地再現模型(神戸市立博物館)、J.W.ハート作図の明治3年(1870)の外国人居留地計画図、神戸開港30年史

Kobe port town continues to develop

発展するみなとまち神戸



昭和13年に描かれた神戸港。三井商船ビルからの風景と思われる。(神戸港眺望・Y.コジマ)

居留地返還後～現代

日清・日露戦争(明治中期)以降、重工業が発展します。旧居留地には多くの日本人が入り込み、貿易・金融業等のビジネスの中心地となりました。神戸港の貿易量が飛躍的に増加すると、港湾機能の充実が急務となりました。神戸港は明治～大正時代に始まった第1・2期修築工事で近代港としての第一歩を踏み出し、その後も時代の要請に応じて変貌を遂げていきます。

神戸経済をリードした造船業

明治14年(1881)に創業し、明治29年頃から盛んに設備投資を行った川崎造船所は、日露戦争以降に建造量を急速に伸ばしました。大正元年(1912)には巨大なガントリークレーンが姿を現しました。

第一次世界大戦期(1910年代)や、第二次世界大戦後(1945年以降)の輸出船ブームでも神戸の造船業は活況に沸きました。



造船業繁栄のシンボルだったガントリークレーン(兵庫)

海運業者の黄金時代

第一次世界大戦期の世界的な船舶・物資不足を背景に、海運業は飛躍的に成長しました。なかでも山下、勝田、内田の各汽船は巨利を得、「船成金」と呼ばれるほどでした。また、その頃、総合商社・鈴木商店は国内外に70余の支店と約80の関連企業を持つ大会社に成長を遂げ、貿易業や海運業にも大いに活躍しました。



鈴木商店の直営工場だった神戸製鋼所(阪浜町)

多様な地場産業の成長

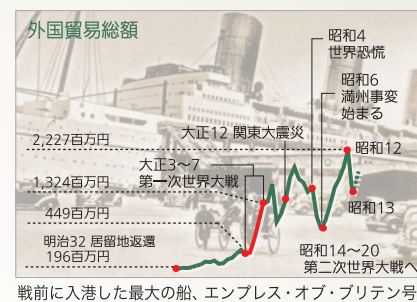
明治初期には輸入していたマッチは程なく輸出に転じ、第一次世界大戦頃まで神戸港の主要輸出品でした。ゴム製造業は明治末期から次々と創業し、マッチ製造からの転換もあって発展。大正後期にはゴム靴製造も盛んになりました。昭和初期になると真珠加工が本格化。製糖・製粉業も神戸の重要産業となりました。



大正初期の自転車タイヤの製造風景

躍進を続ける神戸港

大正3年(1914)、神戸港の貿易総額は初めて全国一になります。また、大正12年の関東大震災で横浜港が大きな被害を受けると、生糸輸出が神戸港へ移り、輸出額が倍増。昭和12年には貿易総額が第二次世界大戦前における最高額を記録しました。この頃、外国クルーズ客船も相次いで入港しました。



戦前に入港した最大の船、エンプレス・オブ・ブリテン号

連合軍、神戸へ進駐

第二次世界大戦では多くの港湾施設が空襲に遭い、港湾の内外に沈没船や機雷があって港は機能しませんでした。戦後、連合軍が第1~6突堤やメリケン波止場、倉庫、旧居留地の建物などを接收。昭和27年まで主要施設の接收は続きました。



戦後、大丸百貨店前を行進する連合軍

はしけ 港湾の輸送を担った

沖合の船から港へ荷物を運搬する船を舢舨といい、昭和40年頃まで大いに活躍、中突堤周辺は舢舨がひしめく舢舨溜まりになりました。多くの舢舨では通勤が不要、陸上との二重生活が負担などの理由で、船頭とその家族が暮らしていました。



昭和40年、舢舨で満杯のメリケン波止場。荷役の処理能力は限界に

コンテナ輸送の時代へ

コンテナ化時代の到来を見越し、昭和42年にわが国初の公共コンテナターミナルが摩耶ふ頭に竣工。9月にはわが国初のフルコンテナ船が入港しました。貨物のコンテナ化による輸送革新は、船舶の回転率や、港湾運送の効率を高めました。



ガントリークレーンで積み下ろしをするコンテナ船



第1期修築工事中の小野浜。引き込み線ができつつあり、港を利用する船が見えます

近代港へ、姿を変える波止場

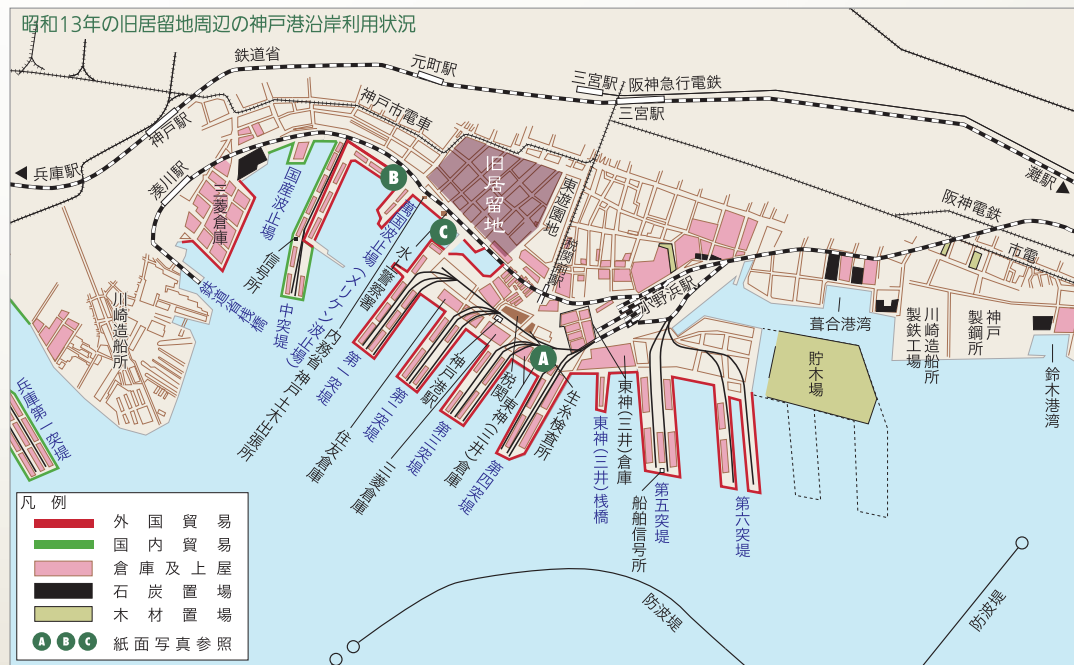
明治40年(1907)着工の第1期修築工事では、技師・森垣亀一郎がオランダで学んだ最新工法(ケーソン工法)で水深9メートル以上の大岸壁を造りました。新港地区には荷役用の起重機が設置され、港と背後地を結ぶ貨物列車の引き込み線も整備されました。

第2期修築工事は大正8年(1919)~昭和14年(1939)に行われ、外国貿易のための新港第5・6突堤や国内貿易用の兵庫第1・2突堤などを建造。修築工事の進展よりも貨物取扱量の増加のほうが早かったため、依然、舢舨を利用した荷揚げも続いていました。

旧居留地には、大正~昭和初期にかけて海運業者や銀行などが進出。近代洋風建築のオフィスが次々と建ちました。写真は昭和初期。中央は新港突堤と市街地を結ぶ京橋



昭和34年頃のメリケン波止場付近。神戸臨港線(支線)は、取扱貨物や荷役形態の変化とともに使われなくなりましたが、小野浜駅は鉄道コンテナヤードとして平成15年まで利用されました



ジャズバンド

太平洋航路の客船でミュージシャンをしていた井田一郎が、大正12年(1923)に神戸でプロジャズバンドを結成。

ケミカルシューズ

大正時代のゴム靴に続いて、昭和27年頃、合成皮革の靴(ケミカルシューズ)が誕生。履物の一分野を築きました。

パーマナント

大正12年、三宮で美容院を営んでいた紺谷すみかがアメリカから機械を購入したのが始まりです。

洋菓子

大正時代、H.フロイドリープやM.コンチャロフ、F.モロソフなどの職人が本場の洋菓子づくりを広めました。





カミナリ神社 B-4
社殿のある高台は古くは敬馬神社と呼ばれ、新羅から海路で来日した使節に生田神社の神尊を搬する舞った場所といわれます。付近には敬馬浦という古代の海上交通の拠点となった港があり、万葉集に「百船の泊つる泊」と取られました。一部は白砂青松の海岸線が続いていたといわれます。
灘区岩屋中町4-1-8 Tel. 078-861-2091



生田神社 E-5
『日本書紀』によると三韓遠征の帰途、神功皇后の船は神戸付近で進まなくなり、皇后が古い屋敷を築き、ここに神宮を建てたといわれます。皇太后が古い屋敷を築き、ここに神宮を建てたといわれます。皇太后が古い屋敷を築き、ここに神宮を建てたといわれます。
中央区下山手通1-2-1 Tel. 078-321-3851

敬馬神社 B-4
社殿のある高台は古くは敬馬神社と呼ばれ、新羅から海路で来日した使節に生田神社の神尊を搬する舞った場所といわれます。付近には敬馬浦という古代の海上交通の拠点となった港があり、万葉集に「百船の泊つる泊」と取られました。一部は白砂青松の海岸線が続いていたといわれます。
灘区岩屋中町4-1-8 Tel. 078-861-2091

和田神社 H-1
神代の昔、孫子大神が淡路から流れ着いた地とされています。平安時代、平清盛が経ヶ島を建設する際に安室の宮島より市村神延大神を勧進。難航する工事の無事完了と港の繁栄を祈願しました。江戸時代に和田船客船などからも海の守り神として信仰されました。
兵庫区和田宮通3-2-45 Tel. 078-652-1551

福厳寺 H-2
室町時代、足利義満は中国・明と勘合貿易を始めた。その拠点港として栄えたのは、それまで大輪田泊と呼ばれてきた兵庫港です。港に近い位置にあった福厳寺は中国使節団の宿舎として使われ、あかかも国際文化交流センターのようににぎわっていました。
兵庫区門口町3-4 Tel. 078-681-1951

兵庫城跡、最初の兵庫県庁の地 H-2
天正9年(1581)、池田輝輝らによって現在の切戸町〜中央卸売市場付近に兵庫城が築かれました。後に尼崎藩の陣屋や大阪町奉行所の勤番所となり、明治元年(1868)には城跡跡の最初の兵庫県庁も置かれました。初代の知事など、中国風の意匠が特徴です。
中央区中山手通7-3-2 Tel. 078-341-2872

北野異人館街 H-4
中国の三國時代の武将・関羽(関帝)や航海の女神・天后(媽祖)を祀っています。関羽は信義を重んじる英雄、天后は商売の神として崇められ、華僑たちのよき守護神とされています。朱塗りの柱や本堂の瓦葺の上で眺め合う賑やかな、中国風の意匠が特徴です。
中央区北野町 Tel. 078-251-8360(北野観光案内所)

海外移住と文化交流センター F-5
初めてのブラジル移住船「笠戸丸」が781人の移住者を乗せて出港したのは明治41年(1908)のこと。神戸港は、昭和46年までの間に全国で約100万人といわれる海外移住者の約4割を送り出しました。ブラジル移民発祥の地の碑が敷地内に立ち立っています。
兵庫区新開5-3-14 Tel. 078-512-5500

東遊園地の記念碑 D-3
旧居留地エリアの東、旧生田川の堤防敷だったところが東遊園地です。居留地時代に外国人の運動場として開かれ、さまざまな近代スポーツがここから普及しました。園内にはポリング発祥の地の碑や外国人のスポーツクラブを創設したA.C.シムの記念碑などが立ち立っています。また、日本近代洋販発祥の地碑や、神戸を愛し、海外に日本文化を紹介したモリスの像もあり、明治時代の居留地から発信された文化の軌跡がうかがわれます。
中央区 Tel. 078-322-5418(神戸市建設局公園緑地部)

旧居留地のレトロなビル群 E-3
旧居留地エリアには、商館の面影を留める十五番館を筆頭に、海岸ビル(旧三井物産)や商館三井ビル(旧大阪商船)、チャータービル、神戸市立博物館(旧横浜正金銀行)など、元治元年(1864)に開港船が建設、現在、当時の姿を留める唯一の複合施設として、三菱重工業神戸造船所に見られます。主要約 Tel. 078-672-2418(MHシネラルサービス)

北野異人館街 H-4
神戸開港後、雑居地として外国人が住んだ北野町山本地区では、明治20年代から本格的に洋館が建設されました。往時は200館以上が建ち並んでいたといわれ、現在も「風見鶏の館」など33館が異国情緒豊かな洋風建築として伝統的建造物の認定を受けています。
中央区北野町 Tel. 078-251-8360(北野観光案内所)

神戸アートビレッジセンター H-2
かつて神戸一の繁華街としてにぎわった新開地に誕生した文化芸術施設。演劇・美術・音楽・映像の分野を中心とする新しい表現活動を応援し、さまざまな公演や展覧会、上映会などを行っています。また、ダンスや音楽などの稽古や創作の場としても活用されています。
兵庫区新開5-3-14 Tel. 078-512-5500

神戸税関 E-3
平成10年に完成した現在の庁舎は、昭和2年竣工の前身の時計塔や玄関の吹き抜けホールを保存再生し、風格ある姿を受け継いでいます。館内の広報展示室では税関の歴史や役割のほか、輸物の手口や偽ブランド品の展示も見られます。
中央区新開町12-1 Tel. 078-333-3028(広報課監査)

メリケンパーク F-6-3
かつてのメリケン波止場〜中央突堤を埋め立て、昭和62年に神戸開港120年を記念して開設しました。赤いフェリーやコンテナ船、クルーズ客船が音く港に立ち並んでいます。HAT神戸のように親水空間を生かしたまちも誕生しています。
中央区止止場 Tel. 078-327-8982(一社)神戸市港振興協会

神戸地方気象台 C-3
中央区中山手通の高台に、日本初の海洋気象台として大正9年(1920)に開設され、2年後には世界に先駆けて船舶気象情報無線送信機も設置されました。
●神戸の気象観測の地まりは明治8年(1875)、港湾管理のために初代神戸港長・マシュー・ワグネルが、
中央区東岡崎町 Tel. 078-360-3639(総合インフォメーション)

六甲山側から見る神戸は山からまちへ、海へと広がっています。開港の頃、充分な施設がなかった港には150年の間に突堤やふ頭が築かれ、巨大なフェリーやコンテナ船、クルーズ客船が音く港に立ち並んでいます。HAT神戸のように親水空間を生かしたまちも誕生しています。
視線のさらに先には人々の英知を集めて造られた人工島が見えます。ポートアイランドや六甲アイランドは住宅や大学が建ち、多様な商業活動が行われる海上都市です。神戸は平成18年に開港した神戸空港とともに人や物、情報が行き交う、さらに豊かなみなとまちへ、その未来に期待が集まります。

神戸に点在する 慰霊と復興のモニュメント
平成7年の阪神・淡路大震災を記憶し、復興の歩みを後世に伝えるために、「慰霊と復興のモニュメント」(東遊園地F-3)や「神戸震災メモリアルパーク」(メリケン波止場F-6)など、多数のモニュメントが各地に設置されています。また、震災や防災について学ぶ「人と防災未来センター」も開設されています。
神戸市、昭和13年(1938)の阪神大空襲や第二次世界大戦の神戸大空襲からも復興を遂げたまちです。空襲と大震災を乗り越え、神戸を愛し、海外に日本文化を紹介したモリスの像もあり、明治時代の居留地から発信された文化の軌跡がうかがわれます。
中央区東岡崎町1-4-3 Tel. 078-222-8907



神戸海洋博物館・カワサキワールド G-3
カワサキワールドは、神戸海洋博物館内にある川崎重工業の企業博物館、造船業から総合重工業へ発展する会社の歴史を製品やパネル展示、映像で紹介しています。
●川崎重工業の前身である川崎造船所は、明治初期から兵庫の重工業発展の一翼を担っています。
中央区止止場2-2 Tel. 078-327-8983

神戸ファッション美術館 B-2
日本初のファッションに関する美術館。18世紀から現代までの西洋衣装やアジアの民族衣装もみられます。
●神戸ファッションの歴史は、居留地時代の英国人洋服店に始まりました。服飾をはじめ、洋菓子や靴、洋家具などの地産産業には神戸の伝統が息づいています。
東灘区向洋町2-9-1 Tel. 078-858-0050

日本真珠会館 H-2
真珠の誕生過程などの展示や、資料提供をしています。建物は戦後の近代建築の一つとして貴重です。
●神戸は三重県などの養殖場に近く、神戸港を控えていること、加工に適した自然光に恵まれていること、背景に、日本の真珠加工の中心地となっています。
中央区東町122 Tel. 078-331-4031(日本真珠会館)

UCCコーヒー博物館 D-1
コーヒーの歴史や文化を紹介する博物館。昭和8年、神戸で創業した上島忠雄商店(現UCC上島珈琲)は、世界初の缶コーヒーを昭和44年から販売しました。
●完町で明治7年(1874)に創業した放翁堂は、日本で初めて「缶コーヒー」販売の試みを行ったといわれます。
中央区港島中町6-6-2 Tel. 078-302-8880

兵庫運河 H-2-I
兵庫運河は古くより国際港として栄えてきました。和田岬沖が航海の難所でした。このため、明治9年(1876)に船の運送となる船橋が完成しました。明治32年には、パナマと運河を結ぶ船橋が完成しました。各地域には造船メーカーの資料館が点在し、造船の伝統を紹介しています。
兵庫区

海軍操練所跡碑 E-3
文久3年(1863)、勝海舟は巡視に訪れた徳川家茂に神戸で開港の要港であると進言。翌年、日本初の海軍養成所をめぐって海軍操練所を開設しました。1年足らずで閉鎖されましたが、その後、周辺地は神戸として開かれ、発展を遂げられました。
中央区新開町

網屋吉兵衛顕彰碑 F-3
安政2年(1855)、網屋吉兵衛が神戸村(現在の新開第1突堤付近)に造った船で、船の修理用ドックは、後に勝海舟の海軍操練所に転用され、神戸開港後は運上所(後の神戸税関)の船入れ場として利用されました。顕彰碑が第1突堤付近にあります。
中央区新開町

六甲山側から見る神戸は山からまちへ、海へと広がっています。開港の頃、充分な施設がなかった港には150年の間に突堤やふ頭が築かれ、巨大なフェリーやコンテナ船、クルーズ客船が音く港に立ち並んでいます。HAT神戸のように親水空間を生かしたまちも誕生しています。
視線のさらに先には人々の英知を集めて造られた人工島が見えます。ポートアイランドや六甲アイランドは住宅や大学が建ち、多様な商業活動が行われる海上都市です。神戸は平成18年に開港した神戸空港とともに人や物、情報が行き交う、さらに豊かなみなとまちへ、その未来に期待が集まります。

